【授業科目】公衆衛生看護活動論Ⅰ（公衆衛生看護技術） Public Health Nursing Activities Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大谷 喜美江、後藤 由紀、佐藤 優子	２年次 後 期	選 択	1	１５	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／地域特性及び対象(個人・家族・集団・組織・コミュニティ)の特性に応じたアセスメント方法、公衆衛生看護活動の基本的な展開方法および保健師の役割について講義・グループワークを通じて理解する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法/提出された課題について、全体の総評コメントを資料にて公開する。
実務経験に関する授業内容	保健師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な地域看護・公衆衛生看護に関する基礎知識について、事例を含む資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①個人・家族・集団・組織・コミュニティを対象とした公衆衛生看護活動の基本的な方法と考え方がわかる。 ②地域の人々の生活と健康をアセスメントする基本的な方法を習得できる。 ③地域の人々への基本的な健康支援の方法を説明できる。 ④地域で働く看護職の役割について、考察し表現できる。
時間外学習に必要な内容・時間	第１～8 回事前・事後学習：指定の教科書を事前に読み、まとめておく。（各 30 分） 第 5 回事前・事後学習：事例についてアセスメントし、家庭訪問計画を考え、演習実践を振り返る。（60 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第1回　公衆衛生看護の考え方・理論 公衆衛生看護活動の理論・方法論を用いた実践例	大谷
第2回 保健指導技術としての対人支援の在り方と面接技術	佐藤
第3回 地域における健康相談・家庭訪問と保健師の役割/演習ガイダンス	大谷/全員
第4回 地域における健康診査・健康教育と保健師の役割	後藤
第5回 地域で生活する人々への家庭訪問（演習）	大谷、後藤、佐藤
第6回 地域における保健師活動の実際	大谷
第7回 地域組織活動における保健師の役割	大谷
第8回 地域ケアシステムの構築とネットワーク化における保健師の役割（60分） まとめ（30分）	大谷／全員

評価方法 評価基準	試験(70%)、課題（15%）、受講態度（15%）で総合的に評価する。		
教科書	標準保健師講座２「公衆衛生看護技術（第３版）」医学書院	参考書等	保健師業務要覧 日本看護協会出版会
学生への助言等	地域はあらゆる人々の生活の場で、そこに住む人々それぞれの、そして共通の健康課題があります。あなたが生活している地域の特徴や健康課題について考えることを期待したい。 地域で働く看護職の役割について、自分なりの考えが表現できるように、主体的・積極的に授業に取り組まれることを期待したい。授業中の飲食・教室の出入り、携帯電話の取り扱いは、禁止する。図書館に参考書がそろっているので、学習の参考にされたい。		